

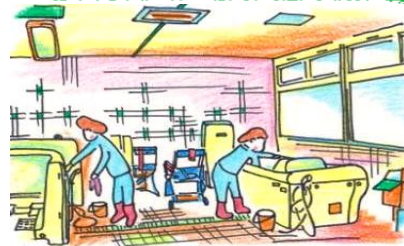
ボランティア見学会

3月14日(木)

～現場を見て ボランティアのきっかけ作り～

ボランティア活動に興味をもつ参加者が、大和市役所に集合。市民活動課主催のこの恒例プログラムはバスに乗っての活動見学会です。「支えあう社会をつくろう」「健康な生活の質の向上をめざそう」の呼びかけに「自分では何ができるだろうか」を考えながら活動現場を見てまわりました。

最初は「大和 YMCA ライフサポートセンター」です。若い介護士の案内で、活動や施設内を見学させていただきました。特にサポート機能のそろった浴場に感心しました。活発に高校生や一般からのボランティア募集をしているのを知りました。太鼓サークルの人が早速、訪問申込書を入手していました。



次は泉の森を歩きながら「自然観察センターしらかしのいえ」を訪問。途中の満開の河津桜では参加者同士で写真を撮ったりしていました。

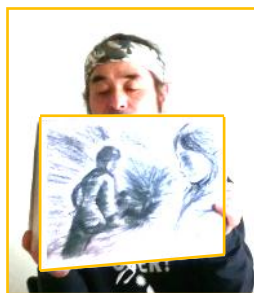
この保全活動をしているボランティア団体の案内で説明を聞きながらまわりました。縁の下の力持ち、この緑や生き物は、このような人たちによる日頃の保全や保護活動のおかげだと感心しました。

最後の訪問場所、大和市民活動センターでは活動団体からのメッセージや質疑応答が行われ、「登録団体活動情報」「ボランティア情報」が配布されました。見学だけではなく、参加者同士の交流ができた有意義な1日でした。(参加者男性・66才)

登録団体「さよなら原発大和パレード実行委員会」は3月5日(火)のFMやまと「やまとっ☆みつけた」に出演。原発事故の後、子どもたちが外で遊べない様子を語りました。また大和市民活動センターを利用して何回も打ち合わせをし、チラシ制作や印刷など、前日まで忙しく準備していました。

さよなら原発大和パレード

～未来のためにパパ・ママ歩こうよ～



原発事故発生時の状況・苦悩・家族の葛藤などを紙芝居にまとめた関ジョニーさん(福島県二本松市在住) オープニング前に大和青少年センターにて。

3月10日(日)に開催された「さよなら原発」集會に参加されたお母さん(3才と5才児もつ主婦)からの投稿です。

大和パレードでは子どもパパ・ママ、ジジ・バアバ、みんなで声を合わせて「原発いらないソング」を歌い、楽器を鳴らしながら大和公園をスタート。駅周辺を一巡して「大和なでしこ広場」まで歩きました。風が強く、子どもたちの風船があちこちで飛ばされるハプニングが起き、パパが風船を追いかける風景が見られました。

あの大惨事を思い浮かべながら、子どもの手をしっかりと握ってパレードを続けました。大和警察署のお巡りさんのあたたかい交通誘導がうれしかったです。

第8回やまと国際交流フェスティバル

3月17日(日)大和駅前には多くの外国籍住民が集まりました。大和市民活動センターも、この国際交流イベントに参加しています。高校生・大学生14名が企画、準備から参加し、当日は「お国はどちら」など呼びかけ「一匹チュー人形劇」を披露しました。大和市には人口23万人に対して70カ国5545人(2月1日現在)の外国人登録があります。また米海軍厚木基地には数千人の関係者がいますので、いろいろな国の人どうしが交流し、理解するうえで意義のあるフェスティバルと想われます。エスニック料理の香りの漂う中、22ヶ国約200人がブースに立ち寄り、自国の国旗を描いて、高校生・大学生と交流しました。



3月9日(土)晴れ

「センター」のある日ある時

高校生ボランティア活動の打ち合わせ会がありました。終わって机を移動している時、資料の裏側に描いてある猫を見つけました。「面白いね。広報で使っていない?」「載せて、のせて。」「名前は?」「駄目!みんなにバレちゃう...後で皆をおどかしてやるの」「何描いたの?」「家の猫をこのノラ猫が毎日いじめに来るから、漫画でやっつけてやった。」「悪い猫だね!なぜ来るの?」「このノラ猫 お腹へってかわいそうだから餌やってるの...」「...」

